

洋楽を用いた一授業のこれまで、そしてこれから

須永 豊

英語学・英語教育部門のシンポジウム「これまで、そしてこれからの英語教育について」において、洋楽を用いた英語授業の実践報告を行った。

1. 『歌って英文法』執筆の経緯

一つの理系学部で23年ほど大学生を「定点観測」してきたが、その英語力は緩やかな下降線を辿った後、コロナ禍で急降下したと感じている。その間、楽しさを重視し、授業に洋楽を取り入れてきたⁱ。当初は学期中に数回のみカンフル剂的に洋楽を使ってきたが、その授業内容を拙著『歌って英文法』ⁱⁱにまとめ、今では毎回の授業で一つの文法事項に焦点をあて、一つの楽曲を用いて指導している（ガイダンスやテストを除く）。

2. 22のターゲット文法と楽曲

『歌って英文法』（前期『歌って英文法2』ⁱⁱⁱ（後期）で計22の文法事項を扱っている。それぞれの文法事項を学ぶための楽曲（計22曲）は、若い世代の好みを意識したアニメソングやポップスなどを多少含むものの、時代を超えて歌い継がれているジャズのスタンダードが中心である。その主な理由は、スタンダードの多くは新旧多数のアーティストによって歌われているため、初心者でも聴きやすい楽曲を厳選できることに加え、歌手による言葉使いや発音の違いを聴き比べる発展的学習にもつなげられるからである^{iv}。

前期ターゲット文法(楽曲)：

品詞の区別 (The Galaxy Express 999) 時制の使い分け (One For All) 現在完了時制 (Try Your Wings)
現在分詞と動名詞の区別 (When You're Smiling) 前置詞と接続詞の区別 (Pick Yourself Up) 冠詞の使い分けと単数・複数 (So Many Stars) 疑問文 (Are You Havin' Any Fun?) S V (Smile) S V C (On A Clear Day)
S V O・S V O O (Pennies From Heaven) S V O C (Hard Hearted Hannah)

後期ターゲット文法(楽曲)：

関係代名詞 (The Things We Did Last Summer) 関係副詞 (He Thinks I Still Care) to不定詞 (I Wish You Love)
w/h名詞節 (After You Get What You Want) 現在分詞 (My Romance) 過去分詞と受け身 (Guess Who I Saw Today)
分詞構文 (I Walk A Little Faster) 仮定法過去 (It Might As Well Be Spring) 代名詞と代動詞 (Words Get In The Way)
知覚動詞 (What A Wonderful World) 使役動詞 (You Make Me Feel So Young)

3. 必要最小限の基本文法：「準備1～3」と「基本ワークシート①～⑥」

『歌って英文法』には、楽曲を学ぶ前に理解しておくべき基本的内容を「準備1～3」および「基本ワークシート」としてまとめている^v。22曲の歌詞の例文で学ぶ具体的な内容は次のとおりである。

準備1：英語を組み立てる「部品」（文字・語・句・節、品詞、主語・動詞・目的語・補語）

準備2：文型・時制・動詞の「変身ワザ」（現在分詞、過去分詞、to不定詞、動名詞）

準備3：「意味のまとまり」をつくるパターン（名詞句、前置詞＋名詞パターン、接続詞～パターン、w/h名詞節、形容詞節）

基本ワークシート：①人称代名詞の使い分け ②be動詞の語形変化 ③doの語形変化 ④haveの語形変化
⑤一般動詞の語形変化 ⑥形容詞・副詞の比較変化

4. 『歌って英文法』を使った授業の特色と流れ

英語に苦手意識のある学生でも楽しめる授業を狙い、グループ（4～6名）ごとに穴埋め式ワークシートの答案を一つ作成することを活動の中心としている。複数の音源を再生し、歌手によって異なる発音や言葉使いの違いに気づかせ、またリクエストに応じて教員も歌うことで、授業が盛り上がる。インターネットで歌詞を検索してしまうと授業の活動が成立しなくなるため、スマホやタブレットの使用は厳禁である。解答・解説を参照できる教科書は「復習用」と位置づけ、授業内での辞書の使用を呼びかけている（後述するように辞書を持たない学生の増加が課題の一つである）。基本的な授業（90分）の流れは次のとおり。

前回の採点結果発表と講評（5分） ➡ 「ターゲット文法」の説明（2～3分） ➡ 個人での予想英作文（5分）

➡ 聴き取り・書き取り・グループ答案作成、回収（30分） ➡ 解説（20～30分） ➡ 発音練習（10～15分）

5. 今年度からの試み

最初の数年は、必要最小限の基本をまとめた「準備1～3」は自習しておくよう指導してきたが、今年度から3回の授業を使って「準備1～3」の内容を解説した上で、品詞、時制の知識、文型の区別（1点×20問）を「中間テスト」として問うなど、リメディアル色を強くした。得点分布は1ケタ～満点、4クラスの平均正答率は40～60%前後であった。

6. 学生の反応（アンケートの自由記述より）

楽曲を聴きながら歌詞の空欄を埋めるグループワークを楽しんでいる学生が多い一方で、最初から諦めている学生も少数見受けられた。2025 年度前期末に行った授業アンケート（自由記述欄）への代表的な回答を挙げる。

「この授業の良かったところ、また継続して欲しいところ」

- ・同じ班のチームと協力し合いながら問題を解くのは、とても楽しかったし、学びになりました。
- ・解説が他の授業とくらべて圧倒的に充実していて、理解がしやすかった。音楽を題材とした授業も、身近な音楽からたくさんの学びを得ることができ、楽しく受けることができた。
- ・先生が自ら自分たちで作った解答を振り返りをしてくれた。
- ・音楽を用いた授業ということで、もともと英語が苦手なこともあり、難しい授業なのではないかと思っていましたが、グループを組んで話し合いながら進めていく授業形態はとても楽しく、少し英語もできるようになった気がします。
- ・曲を聴いて解答したので、リスニング力が上がってよかったです。
- ・根本的な基礎から教えてくれるので土台を作るのにとてもよかったです。何回も反復させてもらえるお陰で頭に定着するようになりました。
- ・今まで高校などで受けてきた英語の授業より楽しみながら学べた。音楽が大好きなので私にはとても合う授業でした。
- ・金曜の最後のコマでも出たいと思うくらい楽しい授業でした。
- ・中学や高校の英語に自信が無い状態で不安でしか無かったけど、本当に基礎から分かりやすく解説をしていただいたので英語に対する意欲も高まったと思う！

「この授業について改善すべきところ、提案できる改善策など」

- ・とにかく時間が足りない。前回の復習で内容が被っている所は大事な要素だけまとめて他は省いていい。
- ・緊急の連絡などもあるためスマートフォンの使用を認めてほしい。
- ・単位を取りたいのにこんなに難しくして先生は楽しいかもしれないけど本当におもんないです。
- ・時間がどうしても足りなくなってしまうのが残念でした。音楽を聴かないといけないので仕方ないと理解しつつももう少し時間があればと悔しく思った瞬間は多かったです。
- ・教科書が小さく書きづらい
- ・音楽のジャンルをジャズだけでなく様々なものを取り入れるといいと思います。特に最近流行の洋楽など学生の興味の湧きやすいものだといいと思います。
- ・班のグループ分けが完全に運であり、班によって課題の出来に差ができていたこと。それが直接成績に関わるので不公平感がある。改善案として、直接授業内課題の点数を成績に加味しないか、班分けを事前テストの成績などで実力で分けることなど
- ・文法のページを説明するだけの回は、もう少し学生主体な感じにした方がみんな眠くならなくていいと思いました。

7. これからの課題

小学校からの英語授業やタブレット等を用いた ICT 教育の効果は一部にはあると思われる。ただ、その一方で、基本の基本が学べていない学生も増えている。例えば人称代名詞の使い分けや be 動詞の活用、さらにはアルファベットの b と d を書き間違える学生も見られるようになっている。学生の多様化（二極化？）が進む中、学生どうしの協同作業とコミュニケーションを中心に据える授業の重要性と意義はより大きくなっている。そこで英語嫌いを増やさずに、いかに基礎を身に付けさせるかは依然として課題である。インターネットやスマホに依存する傾向が強まる中、「辞書」を利用させること自体も益々難しくなりつつある。

AI を教育に利用する可能性が広がる中で、英語学習に必要な「基礎」も変容したり、あるいは不要になることがあるのだろうか？学習環境が変化する中で、日本の多くの学習者にとって必要不可欠な基本文法とは何かをさらに見極めつつ、それを習得するための AI 活用を工夫していくことも課題である。

ⁱ 須永豊「大学における『学び直し英語』の一試み：授業実践報告」日本大学生物資源科学部人文社会系研究紀要『人間科学研究』第 10 号、(2013) pp.186-210.

ⁱⁱ 須永豊『歌って英文法』幻冬舎メディアコンサルティング、2021.

ⁱⁱⁱ 須永豊『歌って英文法 2』幻冬舎メディアコンサルティング、2022.

^{iv} 収録楽曲の推奨音源をいつでも聴くことができるよう、Spotify など複数のプレイリストを公開している。

https://open.spotify.com/playlist/1XVaVVR1REhPOQA7Uxhv6D?si=ZWTrU3mSvuwKYzh1cvO_w（『歌って英文法』）

<https://open.spotify.com/playlist/3x6yKdc3kzh54hOb5LihbS?si=64d4lnC6TFC5e1S7Sv6JVw>（『歌って英文法 2』）

^v 須永 (2021) pp. 20-70.